２０２２年度　初芝橋本中学校・高等学校　学校評価

1　教育目標

① 目指す学校像　難関大学への進学、立命館への高大接続による進学、スポーツで一流選手への成長などを目指す多様性をもった近畿南部随一の学校
② 育てたい生徒像　自ら考える力を持ち、素直で、周りを思いやり、忍耐強く物事に取り組むことのできる生徒

2　中期的目標

1　教科教育力の強化と進学実績の向上
2　立命館コースの高大接続の取り組みの強化と学力向上
3　クラブの競技力向上と全国大会出場
4　特色ある教育（探究型教育・グローバル教育・ICT 教育）の強化
5　生徒募集強化による定員の確保

3　学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
①教育活動に関する保護者アンケート（2022.12.1 実施） 今年度は中高共通の 21 項目のうち、9 項目が肯定的評価 80%以上となった。特に、「進路に関する情報を的確に伝え、きめ細やかな指導がされている」（肯定的評価 80.7%・前年度 77.1%）、「ICT を活用した取り組みが積極的に行われている」（同 82.9%・73.9%）の評価が改善された。また、「学校行事は楽しく充実している」（同 62.1%・44.4%）はまだ低いものの、コロナ禍を乗り越え体育祭等の学校行事を実施できたことが評価改善に貢献したと思われる。 昨年度よりスタートした「セルフデザイン」の運用方法を改善し、生徒の積極的な学習姿勢の醸成などについて、引き続き検討、実践をしていく。 ②生徒授業評価アンケート（第 1 回：2022.6.13 第 2 回：2022.11.7 実施） 一昨年度より外部委託を行い、より正確で客観的な分析を行えるようになった。総合評価の平均は、第 1 回は中学 88.0pt、高校 87.6pt、第 2 回は中学 89.5pt、高校 85.4pt と、昨年度に引き続き、高評価であった。各回のアンケート後に分析報告会を実施した。より良い授業を行えるよう、引き続き努力する。 ③教員による自己評価アンケート（2023.1.23 実施） 「保護者への授業公開の機会」、「学校行事」、「生徒会活動」など、昨年度までコロナ禍でできていなかった行事が実施できたことで、前年度よりも肯定的評価を伸ばした。また、「人権尊重の教育」の項目でも改善が見られた。教員の多忙化による情報交換、共有、研修等の評価について向上するよう改善する。	①委員会体制 初芝橋本中学校高等学校評価委員会 教育後援会会長（卒業生保護者・地域有識者）・ 教育後援会顧問（卒業生保護者・地域有識者）・保護者会会長・ 高等学校 2 学年保護者・中学校 2 学年保護者・校長・教頭・事務長 ②委員会実施日 2023 年 3 月 18 日（土）12:00～ ③自己評価の結果に対する委員会の評価 ・少人数で和気あいあいとした学校の雰囲気はとても良い。進学実績、クラブ活動の実績も上げ、学校の魅力を広報してほしい。 ・理科実験や実習など、授業での興味づけや、土曜日・放課後の活用、大学入試等について、教師からの働きかけを活発に行い、長期的な戦略で子どもたちのモチベーションを上げてほしい。 ・大雪などで臨時休校になったときにオンライン授業を行ってほしい。 ・冬のコートなどがかけられるように、教室にもロッカーを設置してほしい。 ・海外への修学旅行を楽しみにして本校に入学してきた生徒も多い。コロナも 5 類に引き下げられるということなので、早期に実施してほしい。

4　本年度の取り組みと達成状況

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 教科教育力の強化と進学実績の向上	(1)授業評価アンケート・外部研修会の積極的活用	・授業評価アンケートを活用した授業改善 ・外部研修会への参加	・アンケートによる評価 ・外部研修会への参加数	・授業評価アンケート(年 2 回)結果（2021 第 1 回から 2022 第 2 回までの推移） 中学　88.1pt→88.2pt→88.0pt→89.5pt 高校　86.0pt→85.3pt→87.6pt→85.4pt ・予備校・出版社等主催の研修会に 4 回参加した。（数学・地歴・理科・英語）	・授業の工夫などについて情報交換、共有し、良い授業を継続できるしくみをつくる。 ・引き続き、外部の研修会に積極的に参加を促す。
	(2)進路指導の強化	①キャリア教育の充実 ②大学進学実績の向上	①各企画の実施 ②目標大学合格者数 ・国公立大学：4 ・関関同立　：25 ・近畿大学　：15	①　以下を実施した。 (a)説明会 中3内部進学説明会(5/21)、高3進学説明会(5/30,6/4) 中1保護者対象説明会(7/2)、高2大学別説明会(7/11) 高1･2進学説明会(10/14,15)、中3･高1学部系統別説明会(12/12) (b)大学見学会 高1・2(ﾌﾟﾚﾐｱﾑ)大学見学会(大公大) (6/23) 高1・2(総合進学)大学見学会(近畿大・桃山大) (9/14) 高1・2(ｽﾎﾟｰﾂ)大学見学会(大体大・桃山大) (12/15) (c)キャリア教育関連 ・「新聞記事を毎日読もう！」(平日) ・「新聞コラムを漢字かな交じり文に直そう！」(週末課題) ・保護者アンケート「進路に関する情報を的確に伝え、きめ細やかな指導がされている」肯定的評価 80.7%(昨年度 77.1%) ②大学合格者数(4.1 現在) ・国公立大学：4・関関同立：22・近畿大学：6（産近甲龍 10）	・説明会・大学見学会については引き続き実施し、情報提供と大学進学への意欲喚起を図る。 ・新聞を用いた企画についても継続し、生徒に広い視野と教養を身につけるよう指導する。 ・総合進学コースについて、近畿大学に合格する学力をつける仕組みづくり。
2 立命館コースの高大接続の取り組みの強化と学力向上	(1)基礎学力の養成	①模試成績の向上 ②高3検証試験での目標達成 ③入学前教育の充実	①3 教科クラス平均 50.0 以上 ②学習到達度検証試験において第 2 回までに全員が追課題基準(70%)到達 ③入学前教育の充実	①高 1（47.9～48.9）高 2（43.1～45.0）高 3（43.3～47.5）。 ②英語は GTEC で 17 名全員が追課題基準に到達。英数は、第 2 回で 17 名中 16 名が追課題基準に到達。第 4 回で全員が追課題基準に到達し、立命館大学に進学が決定した。 ③12 月～2 月にかけて、大学への数学、英語(TOEFL/TOEIC 対策等)、オンライン英会話、論文講座、物理、世界史の講座を実施した。	・授業担当者だけでなく、教職員全体で目標を共有し、指導する。 ・面談やオリエンテーションで自主的に学ぶ意識づけをする。
	(2)大学で学び続けるための意識の向上	①高大連携企画・本校独自企画の改善と充実 ②理系誘導に係る新しい取り組みの計画	各企画の計画と実施	①各学年・学期毎にオリエンテーションを実施。 ・高 3 対象「校長面談」、高 1・2 対象「主任面談」 ・高 1「立命館を学ぶ」、立命館ミーティング、卒業生から学ぼう、学部説明会、ライスボールセミナー、高 2APU 異文化理解研修、高 2 裁判所見学等を実施した。 ②高 1BKC 訪問、R 講座「環境について考える」、高 2「プログラミング講座」を実施した。	・次年度プログラミング講座は BKC 宿泊研修として実施予定。 ・「進プロ」の活用、各企画で理系内容を盛り込む。
	(3)卒業生支援体制の充実	①キャンパス訪問の実施・卒業生情報の蓄積 ②成績不振者支援	①キャンパス訪問の実施 ②電話連絡・面談等の実施	・7 月に立命館コースの担任が各キャンパスを訪問し、卒業生と面談を行った。	・次年度以降も卒業生との連絡・支援を継続する。

3 クラブの競技力向上と全国大会出場	(1)スポーツコースの特色化	・探究学習を中心としたスポーツコースの特色化	・探究活動の実施	・「総合的な探究の時間」を用いて、各グループの興味関心に合わせて探究活動を行った。2 月 8 日(水)高 1 高 2 で合同発表会を実施した。	・探究学習を通したスポーツコース以外の生徒との交流を計画する。
	(2)クラブ実績の向上	・競技力向上による全国大会への出場	・全国大会への出場	・全国大会出場：柔道部・なぎなた部 ・近畿大会出場：サッカー部・陸上部・柔道部・テニス部 ・保護者アンケート「部活動や生徒活動が活発に行われている」肯定的評価 88.9%（昨年度 85.2%）。	・競技力の向上に努める。
4 特色ある教育（探究型教育・グローバル教育・ICT 教育）の強化	(1)セルフデザインを軸とした教育スタイルの確立	①放課後講座「進プロ（進学プロジェクト)」の精選 ②土曜講座「スタサタ！」の充実	・各取組の実施 ・アンケートによる評価	・年間を 4 クールに分けて、「進プロ」「スタサタ！」を計画し、実施した。 ・各クールの前に「懇談週間」を設けた。 ・スタサタ！についてはプログラムを見直し、1 限に「プログラミング講座」を加えた。 ・高校スタサタ！の日に合わせ、年間で12回の進路講座を実施し、Live配信を行った。 ・テスト前期間の土曜日は「スタサタ！勉強会」とし、自習を促した。 ・教員アンケート「生徒は主体的にセルフデザインを行っている」肯定的評価 62.1%(昨年度 65.5%)。 ・保護者アンケート「わが子は進プロ・スタサタを活用できている」肯定的評価 41.7%(昨年度 45.6%)。	・生徒が自分のセルフデザインについて記録し、振り返り、改善することができる仕組みをつくる。
	(2)ICT を活用した個別最適学習の充実	①「初橋チャンネル（オンデマンド授業)」の進化 ②Qubena、スタディサプリ等の積極的活用	①「初橋チャンネル」の実施 ②Qubena、スタディサプリ等の活用	①中 1～2(国数)、中 3(数英)、高 1～3(国数理英)でオンデマンド授業を実施した。 ②中学全学年に AI 教材「Qubena」を導入した。中 1～高 2 にスタディサプリ、スタディサプリ English を導入し ICT を活用する機会が増えた。	・生徒が積極的に活用し、自学自習できるよう、仕組みづくりをする。
	(3)新学習指導要領に対応する教育の実践	初橋独自の探究学習のスタイルの確立	①探究学習の計画 ②探究学習の実施	①「初橋探究」の高校 3 年間のアウトラインを作成した。 ・1 年…テーマを決めて探究活動を行い、必要な知識・技能を身に着ける。 ・2 年…学校や地域を良くする「政策」を探究し、発表する。模擬選挙で選ばれた政策を次年度実行する。 ・3 年…進路希望、興味関心に合わせて探究し、論文の形で発表する。 ②1 年次の各授業内容を計画し、実行した。2 年生も 1 年生に準じて授業を行った。和歌山県、橋本市の選挙管理委員会の協力のもと、模擬選挙を行い、次年度実行する政策が決定された(2/4(土))。	・2 年次以降の授業計画の作成。 ・大学と連携した探究活動の計画と実施。 ・地域と連携した探究活動の計画と実施。
5 生徒募集強化による定員の確保	(1)募集イベントの充実	①募集行事の内容刷新 ②学校見学会の参加人数増加 ③募集重点地域での出張説明会の実施	①参加者の活動が主となる募集行事への改善 ②参加枠の増加 ③出張説明会の実施回数	①小学生対象「体験入学」では、授業体験の他、クラブ紹介、クラブ体験を追加した。 ・オープンスクールでは入試問題解説の他、クラブ紹介、見学、体験を追加した。 ②8 回実施し、104 組の参加があった。（昨年度 95 組） ③河内長野・岩出・粉河・橿原・葛城で 21 回の出張説明会を行った。	・校内の説明会、募集行事について、引き続き内容を充実させる。 ・学校見学会は「スタサタ！」実施に合わせ、本校のセルフデザインをアピールする。 ・出張説明会は時期と広報を精査し、引き続き実施する。
	(2)広報活動の強化	①目標入学者数の充足 ②重点地域への広報強化 ②SNS の活用	①目標入学者数 中学 30，高校 180 ②重点地域からの入学者増 ③SNS のフォロワー数	①入学予定者数（4.1 現在。カッコ内は前年度） 中学 24（26）・高校 131（161） ②橋本市　中学 3(5) 高校 12(25) 岩出市　中学 1(2) 高校 4(10) 橿原市　中学 0(2) 高校 2(3) 大阪南部　中学 5(5) 高校 17(15) ③フォロワー数 Facebook 33(26)・Instagram 263(120)・LINE 103(111) ・Instagram は 9 月よりほぼ毎日投稿。	・引き続き、他エリアとともに重点地域（特に大阪南部エリア）への広報に力を入れていく。 ・SNS、パンフレットからホームページへ誘導する仕組みづくり。 ・Facebook は停止予定。